

RESAS（地域経済分析システム）とは？

ビッグデータを活用し、地域の現状や課題を客観的データに基づき見える化することで、その特性に即した課題解決を支援することを目的に、内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）及び経済産業省により開発されたシステムです。地域経済分析システムの英語表記（Regional Economy Society Analyzing System）の頭文字を取って、“RESAS”（リーサス）と呼ばれています。

一般公開もされており、一部のデータを除き、どなたでも閲覧することができます。（高校生などが、システムを利用して分析したデータをもとに考えた政策コンテストなども行われています。）

◆URL：<https://resas.go.jp/>（Google Chrome ブラウザが必要です。）



RESASでできること？

企業間取引や人の流れ、人口動態など、国が保有する地域経済に係るビッグデータを、グラフやマッピングなどで見える化したことが最大の特徴で、他自治体等との比較が容易にできます。また、データの出力等も可能です。

現在は、「産業マップ」「地域経済循環マップ」「農林水産業マップ」「観光マップ」「人口マップ」「消費マップ」「自治体比較マップ」の7つで構成されています。（内容は順次バージョンアップされています。）

<例> 農林水産業に係る課題分析

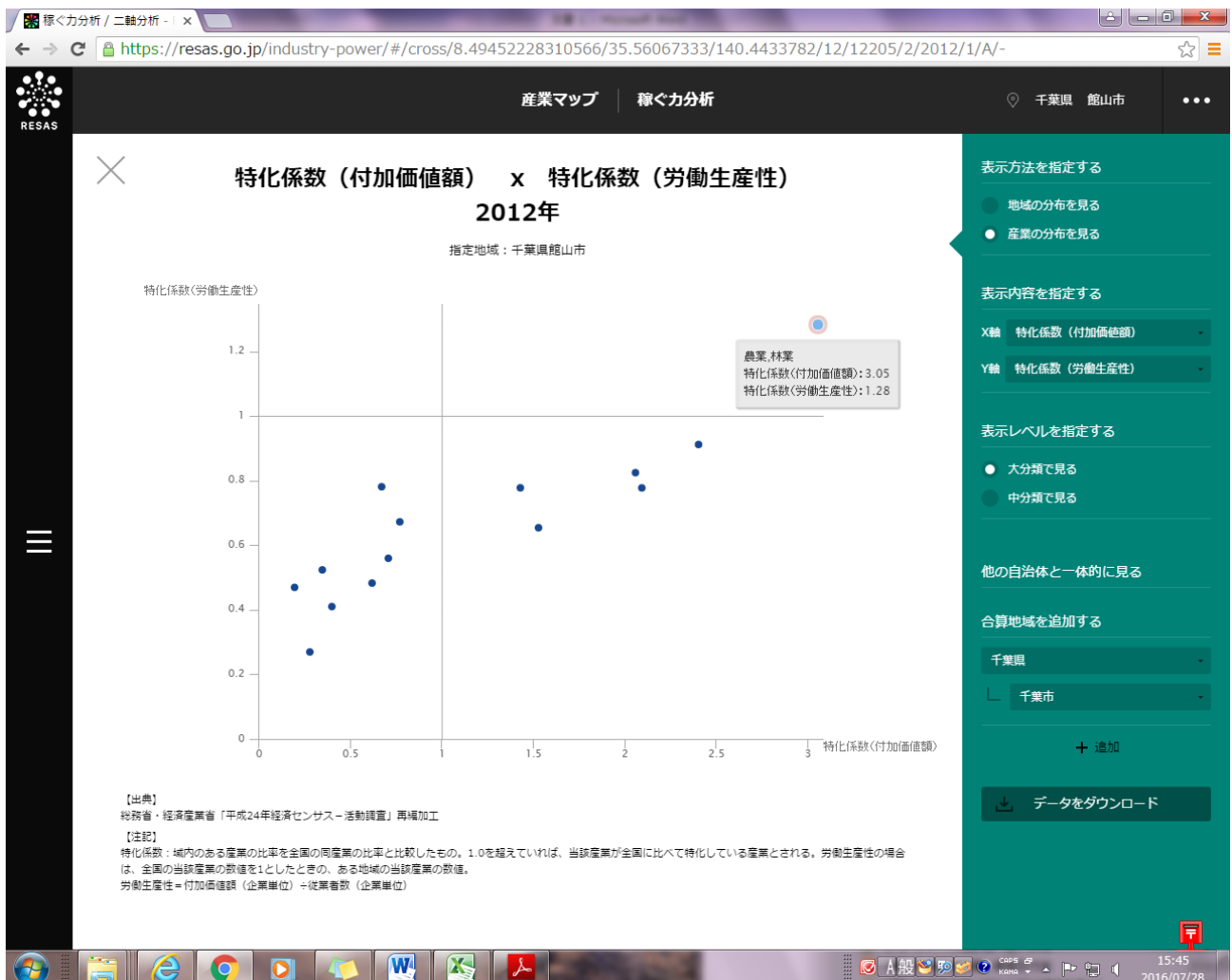
※例として示すもので、正式な分析ではありません。

「産業マップ」の中に、「稼ぐ力分析」というものがあります。これは、その名称のとおり、自治体の稼ぐ力を分析したもので、その中に下記の散布図があります。

この散布図の各点は大きなカテゴリでの産業を示しており、グラフの右にあるほど、館山市におけるその産業の付加価値が全国平均と比べて高く、上にあるほど、従業員一人あたりの労働生産性が高いということを示しています。特に1以上の数値である場合、全国と比較して特化している産業であると言えます。

これを見ると、館山市では農業・林業において、両方の視点で数値が高いことがわかります。つまり、これは館山市の強みと言えます。

ただし、平成24年の経済センサスのデータであるため、農業・林業については法人が対象であり、一般の生産者が対象ではないことに注意が必要です。



次に、「農林水産業マップ」の「農産物販売金額」を見てみると、1経営体あたりの農産物販売金額は、全国及び千葉県では、2005年に比べて2010年の方が増加しているのに対し、館山市（一番左の棒グラフ）は大きく減少しています。これは、生産者の高齢化や有害鳥獣被害等による生産力の低下などが、『仮定』として考えられます。

なお、こちらは農林業センサスのデータであるため、上記の経済センサスの対象とは異なります。

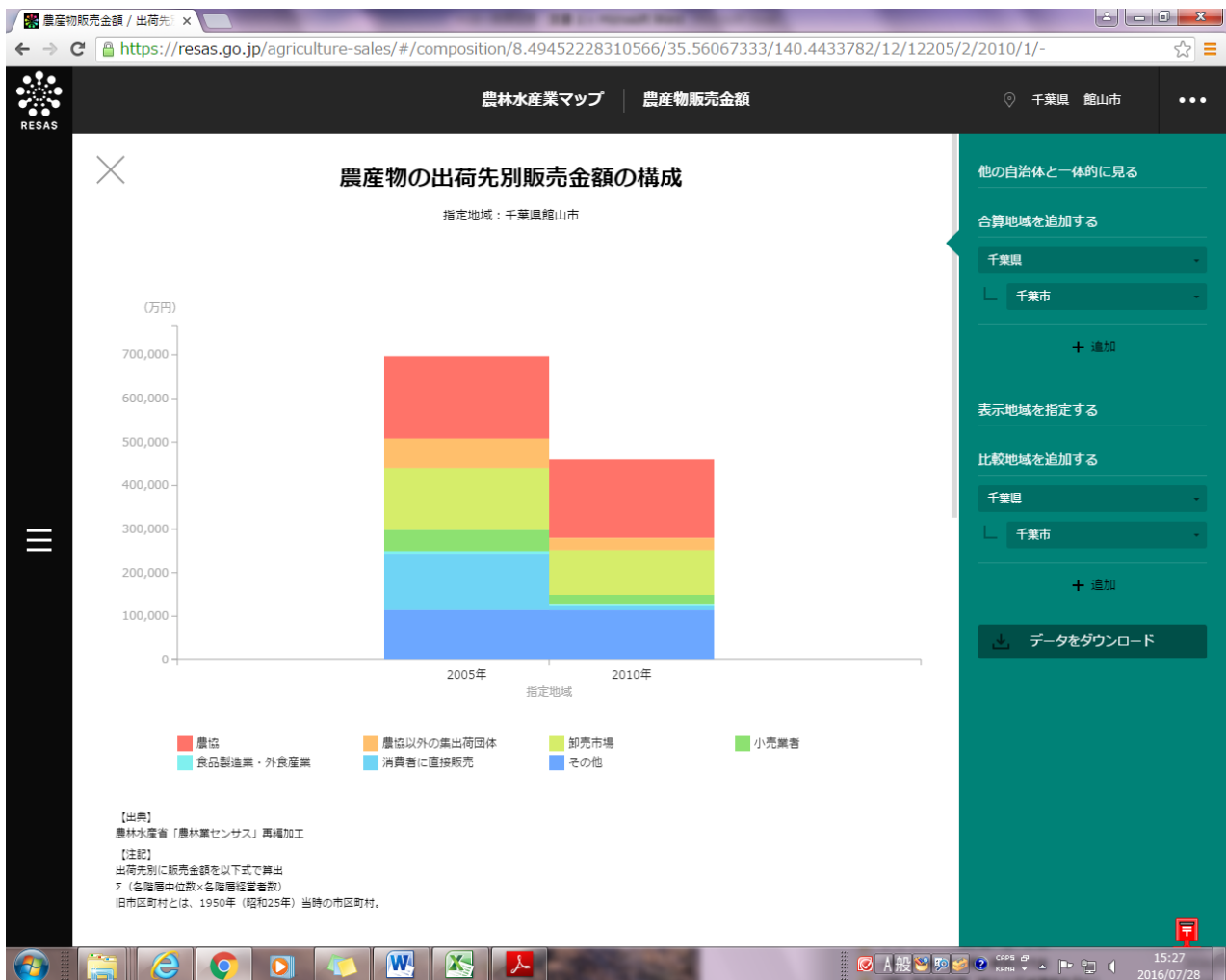


「農林水産業マップ」の「農地分析」で「耕作放棄地率」を見ると、全国及び千葉県ともに2005年に比べて2010年の方が増加しています。館山市も同様の傾向ですが、全国に比べて極めて高いことがわかります。上記販売金額と同様の原因が考えられます。

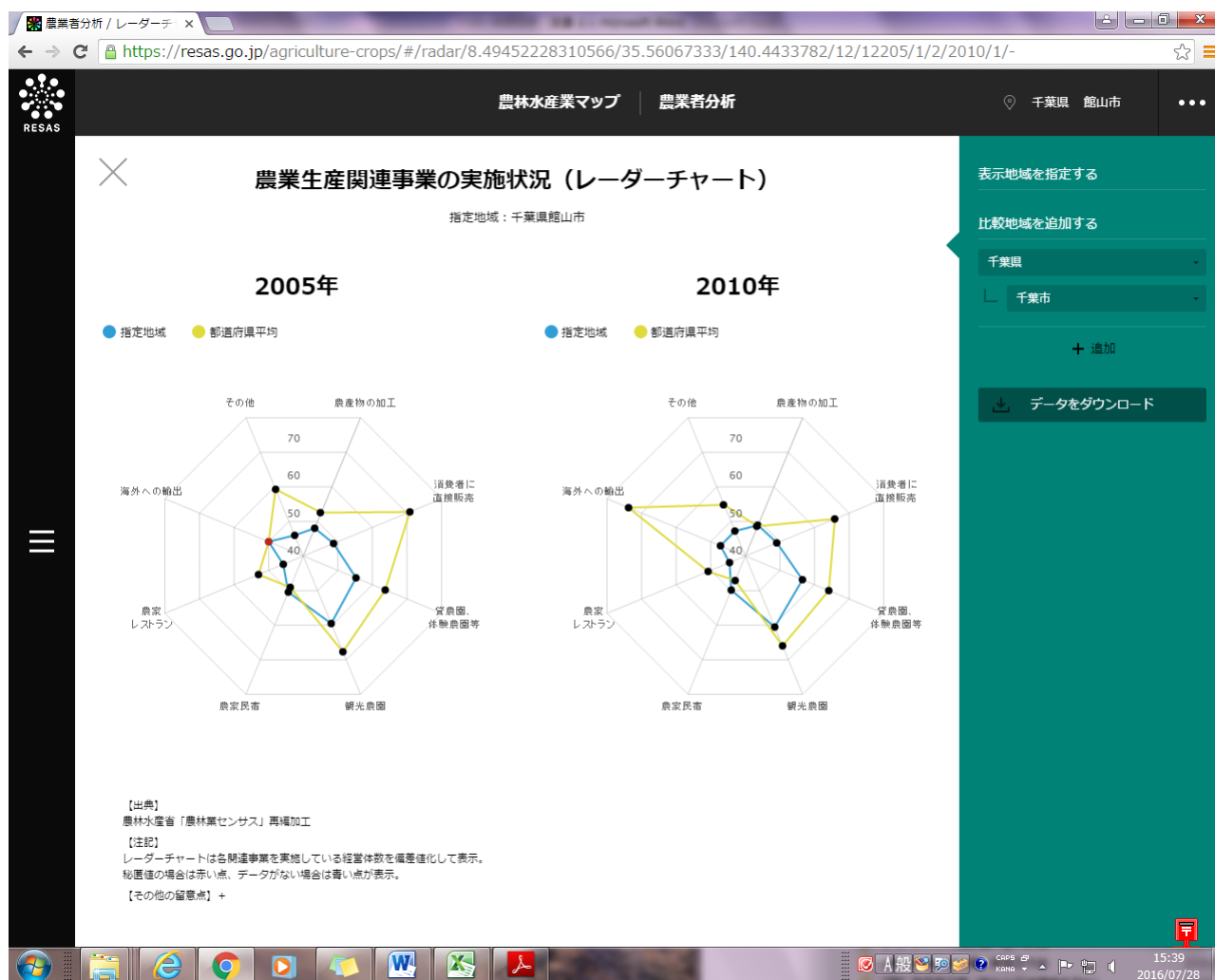


一方、「農林水産業マップ」の「農産物販売金額」の中で、「農産物の出荷先別販売金額の構成」を示すグラフを見ると、2005年に比べて2010年の販売金額では、「消費者に直接販売」の金額が大幅に減っています。

1 経営体あたりの農産物販売金額の減少については、この影響が大きいことがわかりますが、RESASで提供されるデータだけでは、この原因が掴めないため、別途調査・確認が必要です。



「農林水産業マップ」の「農業者分析」では、「農業生産関連事業の実施状況」が示されています。これを見ると、館山市では県内平均と比べて、消費者への直接販売及び海外への輸出が弱いことがわかります。



このように、“RESAS”は大まかな状況を把握するためには、便利なツールです。

ただし、これだけでは不十分な部分があります。RESASで仮定を立てて、そこを別のツールで深掘りするということが必要かと思いますが、視覚的にわかりやすく、大筋を把握するためには有効な方法です。また、“RESAS”は順次拡充されています。2015年の国勢調査や本年度の経済センサスデータが反映されると、また違った分析ができるかもしれません。活用されてみてはいかがでしょうか？